

秋も深まり寒さが増してきました。暖房器具を使うことが多くなると、やけどの機会が増えます。酔つて意識がないまま、長時間、簡易カイロやあんかに触れたり、ストーブの近くで寝入つたりしてしまって、低温やけどになることもあります。

現代社会では、他にもやけどの危険があちこちに。熱い鍋に触れたり、カップラーメンの湯やコーヒーをこぼしたりしても、やけどの恐れがあります。さらに、ヘアアイロンが当たったり、子どもが炊飯ジャーの蒸気に近づいたりなど。

原因となる物の温度が高いほど、また触れている時

皮膚の病気あれこれ

岩崎泰政

⑨

やけど



イラスト・霜野美香

間が長いほど、重症になります。やけどの深さは1～3の段階に分類。赤くなるだけで数日で治る浅いものほど、また触れている時

じ2度でも、痕が残る場合と残らない場合があります。

熱湯が掛かるなどした水で15分程度冷やしてください。その後、広い範囲で赤くなり、痛みや水腫れがあれば、医療機関を受診します。

されば、ステロイドの塗り薬で炎症を抑えます。水腫れがひどいときは、中

液を抜きます。ただれてい

る場合も乾かさず、抗菌薬などを塗つて湿つた状態に保つと治りやすいです。

う。完全密閉タイプのばんそ

熱湯が…すぐ冷やそう

ういうを貼りっぱなしにしておくと、化膿したり、やけどが深くなったりすることがあるので注意してください。

3度や深い2度のやけどは、死んだ組織を取り除き、ほかの部分の皮膚を移植します。

やけどの広さも重症度の目安です。2度が体の全面積の15%以上、3度が手のひら二つ分以上あれば、

入院が必要です。全身のやけどや、顔や手、気道のやけどは、熱傷を専門に診療している総合病院での治療が必要です。広島大病院では救急科と皮膚科が協力して治療に当たっています。

(岩崎皮ふ科・形成外科院
長=福山市)